広報 おばま

2008 4

《表紙》

本年度で閉校となる下根来小学校で卒業式が行われました。最後の卒業生となった山本美希さん（中央）は、在校生４人に祝福されながら笑顔で小学校をあとにしました。（３月 14 日）

【特集】 和久里壬生狂言

～６年に１度の仮面無言劇～

和久里壬生狂言

４月11日㈮～13日㈰　　西方寺境内

炮烙割りの１シーン（平成14年４月12日）

炮烙割りのけいこに励む保存会のメンバー（３月４日・和久里公会堂）

三日間とも大盛況だった前回の奉納。そのユーモラスなしぐさに、訪れた保育園児や小学生らも見入っていました
（平成14年４月12日）

和久里区の西方寺境内に建つ「宝篋印塔（市の塔）」。七年供養会に奉納される無言の仮面狂言が「和久里壬生狂言」です。

この供養会は、数え年の七年目（十二支の子と午の年）の四月と定められおり、境内に設営された舞台で奉納されます。子年の今年は、四月十一日から十三日の予定です。

壬生狂言というと、京都壬生寺の「壬生大念仏狂言」が有名です。正安二（一三〇〇）年、京都で蔓延した疫病を念仏で祈願し、治したのが円覚上人でした。円覚上人を慕い、多くの人がその説教を聞こうと集まってきましたが、あまりにも大勢の人になったため、円覚上人は仏の教えを身ぶり手ぶりで説き伝えました。これが壬生狂言の始まりとされています。

以後、芸能化されつつも、勧善懲悪（※）や因果応報を教える宗教劇として三十曲が受け継がれています。

京都で始まった狂言が、いつ小浜に伝えられたかは定かではありませんが、江戸時代中期ではないかと推測されています。記録では、江戸時代後期の文化十三（一八一六）年以降、小浜の永三小路（八幡神社前）にあった「市の塔」の七年供養に、壬生狂言を奉納していたとあり、「市の塔」が和久里の西方寺に移設されてからは、和久里区民が奉納するようになりました。

昭和十七年までは六年ごとに奉納されていた「和久里壬生狂言」ですが、戦争や台風による大水害で道具が流出したことなどから中断。同三十五年には一時復活しましたが、社会情勢の変化により再び中断することになりました。

しかし、同五十三年、壮年グループ「甚六会」の復活への熱い思いが実りました。先輩による厳しい指導を受け、十八年ぶりに復活奉納が行われたのです。もちろん、区民の多大な協力があったことは言うまでもありません。

その後は中断することなく奉納が行われ、今年は復活して六回目の奉納となります。

同六十一年には「県無形民俗文化財」、平成十五年には「国選択無形民俗文化財」に指定された「和久里壬生狂言」。保存会のメンバーらは六年ぶりの奉納に向け、厳しいけいこに励んでいます。

（※）よい行いを勧め、悪を懲らしめること

西方寺境内の特設舞台で奉納

奉納は、西方寺（和久里区）境内の特設舞台で行われます。その舞台は、すべて保存会のメンバーの手作り。柱はヒノキ、屋根はわらぶきで、ひさしと床のすそ周りはスギとヒノキの青葉で飾ります。ひさしの正面には「壬生」と大きく書かれた額が、舞台の下手には橋が掛けられます（三ページの写真を参照）。保存会のメンバーらは、三月下旬から舞台の設営準備に取りかかります。

囃子は「笛」「鰐口」「太鼓」

舞台の上手には囃子座があり、鰐口（鉦）と太鼓、笛が陣取ります。ゆっくりとしたテンポで笛の演奏が始まり、カン・と鰐口が鳴るとデン・デン・と太鼓が応えます。それに合わせ、鬼や閻魔大王、やっこ、娘などの仮面を着けた人物が登場し、身ぶり手ぶりでおもしろおかしく演じます。

演じられるのは「九演目」

和久里壬生狂言で演じられるのは、「狐釣り」「腰祈り」「寺大黒」「愛宕詣り」「餓鬼角力」「炮烙割り」「座頭の川渡り」「花盗人」「とろろすべり」の九演目。そのすべてが人の道や仏法を説き、信仰を勧めるものを基本としています。

京都壬生寺では廃曲となった「狐釣り」「座頭の川渡り」、上演された記録のない「腰祈り」が演じられるなど、貴重な民俗芸能として注目が集まっています。

ユーモラスな仮面無言劇をこれからも守っていきたい

和久里壬生狂言保存会会長
永井 龍雄 さん
（67歳・和久里）

和久里壬生狂言保存会のメンバーは五十三人。そのすべてが男性です。メンバーらは四月の奉納に向け、一月二十六日から火・木・土曜日の夜に、和久里公会堂でけいこに励んでいます。

「動きがちょっと早いなあ。ひとつひとつの動作はゆっくりと大きく」。けいこの様子を見ていた保存会会長の永井龍雄さんが立ち上がり、身ぶり手ぶりで演技者に指導をします。

「壬生狂言は無言で演じるため、動きだけですべてを表現しなければいけません。例えば、お酒を飲む場面では、おいしくてたまらないというようにゆっくり、大きく、楽しそうに演じます。茶店の女中がお茶を運ぶ場面では、囃子に合わせて静々と歩きます」と永井さん。本番に向け、いよいよけいこにも熱が入ってきました。

「和久里には、京都壬生狂言では行われなくなった演目がありますし、平成十五年には国選択無形民俗文化財に指定されました。このユーモラスな仮面無言劇を、これからも守っていかなければと思っています。今回も三日間にわたって奉納します。観覧は無料ですので、ぜひ会場にお越しください」

熱心に指導する永井さん

笛のけいこ

座頭の川渡り

炮烙割り

愛宕詣り

リズムをとる鰐口と太鼓

けいこに励む保存会のメンバー

九演目の中から、主な話を紹介します。

●炮烙割り

町に新しい市場を開く計画を立てた役人が、「一番に店を開いた者には免税する」という奨励の立て札を立てました。

夜の明けないうちに羯鼓（太鼓）売りがやってきて、立て札を見て一番乗りを喜び、夜明けを待つ間にひと眠り。そこへ、二番目に現れた炮烙（皿）売りが立て札を見て自分が一番だと思い、にんまり。しかし喜びもつかの間、すでに先手がいることがわかりました。なんとかして一番乗りを我が手にしようと持ち物をすり替え、二人は大争いに…。

●愛宕詣り

和久里の西方にある後瀬山の愛宕神社には火の神が祭られていて、防火祈願として信仰を集めています。昔、その参道には多くの茶店が並び、その中には土器投げをして楽しむところがありました。この狂言は、ある茶店で起きた珍妙なもの…。

神社にお参りした帰り道、茶店で一休みしている母娘がいます。そこへ大尽（金持ち）が供を連れて入ってきました。一服後、土器投げを楽しんでいるとき、ふと娘に目が止まりました。手ぬぐいで顔を隠していますが美しい身なりをしています…。

●花盗人

花見に来た大尽、酒を飲み過ぎて寝てしまい、盗み飲みをした供もいっしょに寝てしまいました。そこへ盗人が現れ、大尽の懐から金を盗みますが、気づかれ捕まってしまいます。大尽は供に縄を持って来るよう命じましたがあるはずもなく、供がワラで縄を作ろうとするも酔っているのでなかなかできません。ようやく縄が完成したと思ったら、供は大尽を縛り盗人には逃げられてしまいました。

「日ごろから何事にも備えが大切」ということをおもしろく仕組んだ話。

●餓鬼角力

市の塔供養奉納の大相撲春場所。東は閻魔大王、赤鬼、黒鬼、西はお地蔵さんとぶるぶる震える餓鬼（亡者）が二人。

最初の取り組み。餓鬼は足もとがおぼつかなく、鬼が四股を踏んだだけで転んでしまう始末。お地蔵さんが仏に祈り、魔除けのおまじないをして餓鬼に力を授けると、今度は鬼でもかないません。怒った閻魔大王がお地蔵さんと戦うも、土俵に転がされてしまいました。

慈悲深いお地蔵さんには本当の力が隠されていて、閻魔大王でもかなわなかったという話。

●座頭の川渡り

悪人が目の不自由な人にいたずらをして喜ぶという話。

春の陽気に誘われて、野酒でも飲もうと座頭の親分が、子分を連れて出てきました。楽しく酒を酌み交わしているところへ悪人がやってきて、酒を横取りしてしまいます。子分がいくら酒をついでも飲むことができない親分。不思議がっていると今度は頭をぶつけられます。仕方なく帰る途中、川まで来ると再び悪人がいたずらをします。

このように、いたずらを繰り返していると、本当の悪人になるという戒めの狂言。

平成 20 年度　当初予算

平成 20 年度の当初予算が決まりました。一般会計は 134 億 9,803 万円で、「三大プロジェクト」などの大型事業が完了したことにより前年度比 19.1％の大幅な減となりました。特別会計の合計は 98 億 5,817 万円で、後期高齢者医療制度の創設に伴い、老人医療特別会計が大幅な減額となったことから、前年度比 20.8％の減となりました。企業会計の合計は 9 億 8,468 万円で前年度比 15％の増となり、すべての会計の予算総額は 243 億 4,089 万円で前年度比 18.8％の減となりました。

※端数調整してあるため、会計別の合計額と予算総額に差があります

■問い合わせ　財政課　☎内線 333

【骨格的な予算編成】

小浜市の財政状況は、歳入については国の三位一体の改革によって地方に税源の移譲がなされたものの、企業の立地が集中している都市に比べ税収が伸び悩み、国から交付される補助金の縮小や廃止、地方交付税の削減などによって、厳しい状態が続いています。

一方、歳出については、福祉・医療・介護などの社会保障関係経費や公債費（市が借り入れたお金の返済金）などの増大が見込まれています。

このような中、平成二十年度の予算編成にあたっては、昨年十月に策定した中長期財政計画のフレームに基づくと共に、夏には市長選挙を控えていることから、政策的な経費を抑制する、いわゆる「骨格的予算」としました。具体的には、行政改革集中プランに沿って、徹底した歳出の見直しを行い、維持管理経費、事務経費などの経常的な経費や職員数の見直しによる人件費の削減を行いました。

また、建設事業などに係る投資的経費についても、リサイクルプラザの建設、小浜小学校の建設、企業誘致のための用地造成の「三大プロジェクト」が平成十九年度に完了したことにより縮減しています。

新規事業については、前年度の二十三件から八件に抑えるなど、全体にわたって「緊縮型の予算編成」となっています。

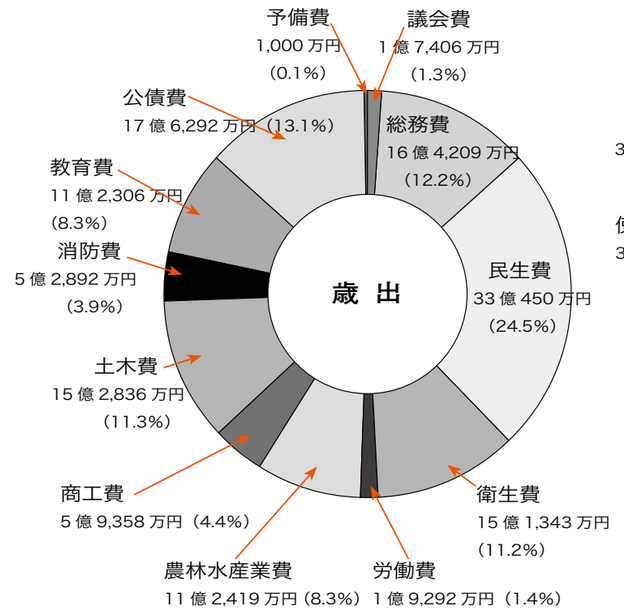
今後とも、さらなる行財政改革を推進する中で、市民サービスの低下を招かないよう「身の丈」にあった財政運営に努め、財政の健全化への取り組みを進めていきます。

平成 20 年度　会計別当初予算

		平成 20 年度	平成 19 年度	増減率
一般会計		134 億 9,803 万円	166 億 8,475 万円	▲ 19.1%
内訳	国民健康保険	31 億 6,695 万円	31 億 6,973 万円	▲ 0.1%
	老人医療	3 億 1,793 万円	33 億 6,506 万円	▲ 90.6%
	後期高齢者医療	3 億 8,309 万円	—	皆　増
	介護保険	26 億 8,349 万円	25 億 3,570 万円	5.8%
	簡易水道	1 億 223 万円	9,793 万円	4.4%
	下水道	26 億 6,179 万円	27 億 3,526 万円	▲ 2.7%
	農業集落排水	4 億 5,316 万円	4 億 4,523 万円	1.8%
	漁業集落環境整備	6,124 万円	6,620 万円	▲ 7.5%
	駐車場	2,826 万円	2,936 万円	▲ 3.7%
	加斗財産区	3 万円	3 万円	0%
特別会計		98 億 5,817 万円	124 億 4,450 万円	▲ 20.8%
内訳	国民宿舎	1 億 645 万円	1 億 252 万円	3.8%
	水道	8 億 7,823 万円	7 億 5,408 万円	16.5%
企業会計		9 億 8,468 万円	8 億 5,660 万円	15.0%
合計		243 億 4,089 万円	299 億 8,585 万円	▲ 18.8%

一般会計予算を
市民１人当たりにすると
416,272 円　で、
目的別内訳の主なものは
次のとおりです
（人口 32,426 人　３月１日現在）

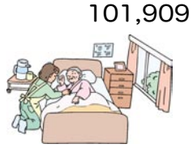
一般会計予算
134 億 9,803 万円



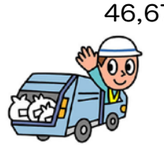
- 依存財源　56.9%（76 億 8,042 万円）
  国や県から交付されたり、市が借り入れたりする財源
- 自主財源　43.1%（58 億 1,761 万円）
  小浜市独自の財源

総務費（課税徴収、防災、戸籍事務など）
50,641 円

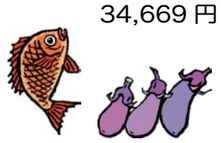
民生費（障害者、高齢者、児童の福祉など）
101,909 円



衛生費（環境保全、ごみ処理など）
46,673 円



農林水産業費（農業、林業、水産業の振興など）
34,669 円



商工費（商工業の振興、観光事業など）
18,306 円

土木費（道路、河川、公園の整備や維持管理など）
47,134 円

教育費（学校教育、社会教育、体育施設の維持管理など）
34,635 円

公債費（借金の返済）
54,367 円

このような　事業に使います

産業、生活の基礎づくり

琵琶湖若狭湾快速鉄道早期実現のための積立金	8,750 万円
あいあいバスの運行経費に対する助成	8,088 万円
若狭西街道・中部農免道路整備などに係る負担金	1 億 7,481 万円
小浜縦貫線（住吉～酒井）整備に係る負担金	7,841 万円
まちづくり交付金事業（今富地区の道路整備など）	7,224 万円
山手小松原線・臨港線などの整備	1 億 7,668 万円
舞鶴若狭自動車道関連道路の整備	1 億 8,828 万円
公共下水道第４期区域の整備工事（下水道事業特別会計）	10 億 9,273 万円

美食の郷・食のまちづくり

小浜市地産地消の店の認定などによる地場産食材の活用推進	12 万円
塗り箸産地の PR（ちりとてちん撮影セットの設置、マイ箸運動など）	582 万円
生涯食育推進大会、ふるさと料理を楽しむ会などの開催	414 万円
「キッズ・キッチン」を通した食育推進	108 万円
「ジュニア･キッチン」の実施など、学校での食の教育推進	207 万円
中学生を対象とした「地域の食材を利用した調理実習」の実施	40 万円
豊かな水を PR する御食国若狭おばま名水マップの作成などに対する助成	**80 万円**

心やすらぐ福祉・環境のまちづくり

障害者自立支援法に基づく障害福祉サービス（26 事業）	3 億 9,629 万円
子育て家庭の親子が交流をはかる「つどいの広場」の設置	711 万円
児童の遊び･生活の場になる「児童クラブ」の設置	2,235 万円
新今富保育園建設のための設計費用の助成など	1,697 万円
後期高齢者医療制度の運営主体（広域連合）への納付金	3 億 7,158 万円
はしか、風しん、インフルエンザなどの各種予防接種	2,299 万円
杉田玄白記念公立小浜病院の運営費などへの負担金	4 億 1,312 万円
旧ごみ焼却施設（清掃センター）の解体工事	1 億 8,500 万円
リサイクルプラザの運転管理	9,509 万円
メタボリックシンドロームに着目した「特定健康診査」「特定保健指導」の実施（国民健康保険事業特別会計）	1,479 万円

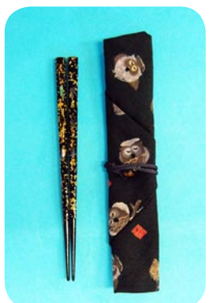
主な使途を紹介

オレンジ色で記載した事業
＝新規事業

オレンジ色の太字で記載した事業
＝市民提案型事業

小浜市地産地消の店
認定看板

上方落語家による寄席



若狭塗り箸とマイ箸袋

いきいきまちづくり
（コウノトリウオーク）

誇りある人づくりと文化振興

世界遺産暫定リスト登載を目指した取り組み	56 万円
小・中学生の海外派遣と海外児童の招へい	120 万円
学校復帰や立ち直りに向けた「サポートチーム」の組織など	304 万円
介助や支援が必要な児童のための学校生活支援員の配置	621 万円
国富小学校大規模改修・耐震補強工事	1 億 4,130 万円
公民館や小学校における小学生を対象とした体験学習活動	285 万円
各地区の公民館や名所での上方落語家による寄席の開催などに対する助成	**74 万円**
文化会館大ホールの座席改修	500 万円
指定文化財の修理に対する助成	2,477 万円
武田氏館跡関連遺跡、神宮寺関連遺跡などの発掘調査	305 万円
姉妹都市（奈良市、慶州市など）とのスポーツ交流	53 万円

活力ある産業・観光づくり

農業生産組織の機械・設備などの導入に対する助成	688 万円
産地再生を目指す営農集団の設備整備に対する助成	1,131 万円
農地・農業用水などの地域資源の保全に向けた共同活動への支援	642 万円
農林産物及び人家への被害をもたらす有害鳥獣の駆除	740 万円
福井県立大学と連携して実施する水産加工研究に対する助成	50 万円
小浜市と鯖江市の児童が行う農林漁業体験交流への支援	100 万円
若者の仕事に対する悩みに対応するミニジョブカフェの設置	40 万円
食と文化の交流フェア、ちりとてちんロケ地ツアー、ご当地検定など	2,000 万円
マイ箸袋の製作、パンフレットの作成などに対する助成	**30 万円**

健全な財政と市民の行政への参画

各地区が実施する「いきいきまちづくり」事業への助成	540 万円
男女共同参画社会の実現に向けた取り組み	32 万円

拉致被害者などの支援

帰国拉致被害者の社会適応指導、地域交流の支援	420 万円
特定失踪者問題の早期解決に向けた支援	36 万円